

洗車とワックスがけ

自分でやってみよう!

セキチュー
How To D.I.Y

99

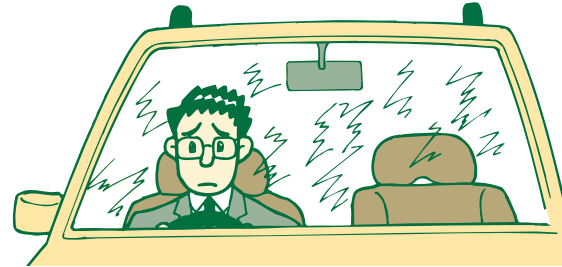


ワックスは車をピカピカにするためだけにかけるのではありません。陽やけからボディを守り、車の塗膜を守っているのです。ですからワックスをかけないでいると、塗膜が早く衰えていきますので、1、2か月に一度はワックスをかけたいところです。ここではその前の洗車の方法と、がんこなピッチの汚れやホイール等のクリーンアップの方法を紹介します。

Do it Yourself & Save

ここがポイント!

ワックスはガラス、
ゴム部分にはつけないように



ワックスがガラスにつくと、油膜でキラキラするようになりますので、つけないように塗ってください。ガラスについたワックスは、ワックスがけが終わった後にガラスクリーナーをスプレーして拭き取ってください。またゴムや樹脂部分にワックスがつくと白くなってしまいますので注意してください。逆にフロントグリルなどのメッキ部分はサビ止めになりますので、塗ってもいいでしょう。

サービスのご案内



●クレジットもご利用になれます。



制作発行 / 株式会社セキチュー 販売促進部
〒370-1201 群馬県高崎市倉賀野町4531-1

TEL.027-345-1111(大代表)

●タイヤの汚れ

—タイヤクリーナー—
タイヤの汚れを取って、タイヤのつやつやした黒さを取り戻すクリーナーです。スプレーするだけで拭き取らなくてもいい簡単なクリーナーですが、走行は乾いてからにしてください。



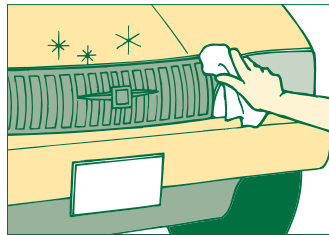
●アルミホイールの汚れ

—ホイールクリーナー—
アルミホイールやフロントグリルなどのクロムメッキの汚れを落とし、つやを取り戻します。



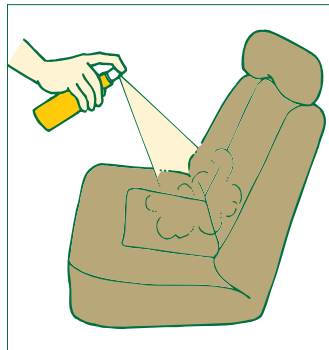
●シルバーメッキ部分の汚れ

—クロムクリーナー—
布につけて磨くとサビが取れて元のつやがよみがえります。サビを取った後はワックスを塗っておくとより効果的です。



●布シートの汚れ

—布製シートクリーナー—
スプレーした後に付属のブラシで溶き伸ばしながら、軽くブラッシングしていきます。その後乾いた布でよく拭き取り、乾燥させてください。



愛車のクリーンアップ—洗車とワックスがけの方法

洗車

洗車は手洗いが原則です。ボディを洗うのはスポンジかタオルで。洗車ブラシは多少細かいすり傷がつくので、こびりついた汚れをとるときだけ使った方がボディはきれいです。最近は塗装技術もペイントそのものの質も驚くほどアップして、なかなか傷つきにくはなってきましたが、それでも気になる方はスポンジかタオルで洗車した方が安心です。特にメタリック車は塗料の中に細かいアルミが入っているので、洗車機などで勢よく洗車すると、傷がつきやすくなります。



拭き取り

洗車した後の拭き取りはタオルよりもセーム皮を使ってください。セーム皮はまず水に浸してから固く絞って拭き取りを始めてください。ちなみにも眼鏡のレンズなどの拭き取りもこのセーム皮を利用するときれいになって、傷もつきません。

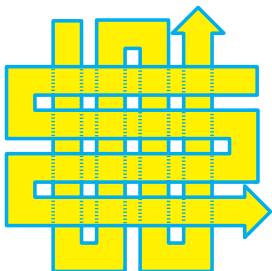
ワックスのかけ方

●時期……ボディにかかった水滴が丸くならなくなったからワックスがけの時期です。
●時間、場所……晴れた日が2、3日続きそうな、風のない日を選び、できれば日陰でやるようにしてください。

1 水分を完全に取る
ボディに洗車した後の水分が残っていないようにして、エンジンが冷えていることを確認してください。ボディ(特にボンネット)がエンジンの熱で熱くなっていると、塗りむらができる場合があります。



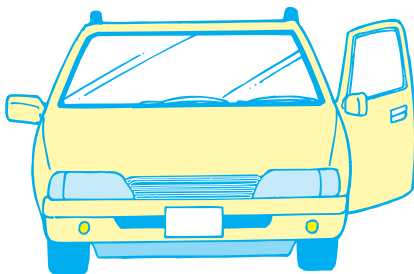
2 タテ、タテ、ヨコ、ヨコと塗る
ワックス専用のスポンジに1回につき30~40cm角ぐらいの部分を塗れるほどの量のワックスをつけて、タテ、タテ、ヨコ、ヨコとイラストのように塗っていきます。円を描くように塗ると、塗り残しの部分が出てくることもありますので、やめたほうがいでしょう。この方が拭き取りもラクにできます。



3 パネルごとに塗る
洗車と同じくルーフ、ボンネット、ボディドアのように各パネルごとにワックスをかけていくようにしましょう。

4 乾いたらすぐ拭き取る
全体にワックスをかけた後にすぐ拭き取らないで、白く乾いた箇所から手早く拭き取るようにしましょう。拭き取りにはワックスマットを使うとラクです。逆に乾き切らないうちに拭き取るとむらができるので、必ず乾いてから、乾いたタオルや拭き取りクロスで、常に乾いた面を使って拭き取るようにしてください。

5 さらに拭き取る
全体の拭き取りが終わったらもう一度、タオルで拭き上げてください。よりいっそう輝きが増してきます。



ワックスの種類と特徴

一口にワックスといっても、いろいろなタイプがありますので、その特徴をよく把握して塗るようにしましょう。

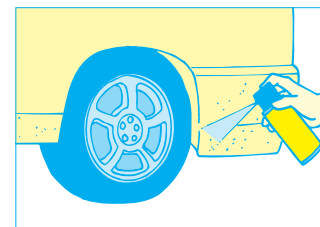
タイプ	特徴
固形	深みのある豊かな色の車に最適。特にデリケートなメタリック車には一番安心して使えます。
半ネリ	塗りこみやすく、拭き取りも軽いので、力があまりいりません。女性向きのワックスといえるでしょう。耐久性も充分あります。
液体	スピーディに塗れるので、急ぎのときには便利で作業もラクです。
スプレー	作業的には一番早く塗れます。手軽に塗れるので、最近では人気があり、クリーナーとしても充分な働きがあります。
コート	長期間効果が持続し、水アカや汚れ防止効果にも優れています。

ワックス比較表

タイプ	耐久性	光沢性	防汚性	クリーナー性	作業性
固形	◎	◎	○		
半ネリ	○	○	○	○	○
液体	○		○	○	◎
スプレー				◎	◎
コート	◎	○	◎	○	○

専用クリーナーの種類と使い方

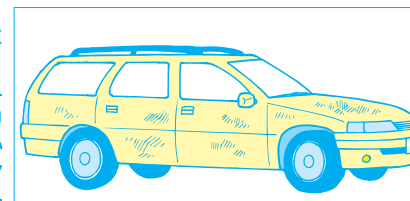
●ボディの下部に点々とした黒いしみ
—ピッチクリーナー—
これは道路のアスファルトからつくタールですので、普通のクリーナーではなかなか取れません。専用のピッチクリーナーをスプレーしてよくこすって落としてください。



●フロントガラスのガラガラ
—油膜取りクリーナー—
雨の日のドライブは特に困りもの。スプレーして拭き取ってください。



●白い車についた水アカ
—水アカクリーナー—
水アカは普通のクリーナーではなかなか落ちませんので、水アカ専用のクリーナーを使った方が早く、確実に落とせて、ある程度のワックス効果もあります。



●レザー部分の汚れ
—レザークリーナー—
汚れを取るだけでなく、レザー部分を保護して、つやを出します。

